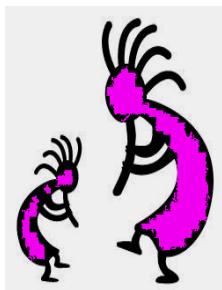


令和8年1月(270)

秋山医院
藤岡市小林748-8
0274-22-8315



医院だより

明けましておめでとうございます

睦月(むつき) 別名 年端月(としはづき)

初春月(はつはるづき) 初空月(はつぞらづき)

太郎月(たろうづき) 露初月(かすみそめづき)

早緑月(さみどりづき) 子日月(ねのひづき)、

祝月(いわいづき)

陰曆(旧曆) 一月の異称である。陽曆にすれば、
だいたい1月上旬、立春以後から3月の初めにあた
る。新年であるから知友や親戚たちが往来して、親
しみ睦ぶという意から「むつび月」というのを略し
たものといわれる。

籠り出たものはものぐさ太郎月 藤村

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

高崎だるま市 元旦



『1月の花』

蝟梅(ろうばい)、枇杷(びわ)、冬桜(ふゆざくら)、寒牡丹(かんばたん)、日本水仙(にほんずいせん)

わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の
不義を隠さなかつた。わたしは言つた、『わ
しのとがを主に告白しよう』と。その時あなた
はわたしの犯した罪を許された。この故に、す
べて神を敬うものはあなたに祈る。大水の押
し寄せる悩みの時にも、その身に及ぶことは
ない。あなたはわたしの隠れ場であつて、私を
守つて悩みを免れさせ、教えをもつて私を

囲まる。 (詩篇三二・五・七)

罪は罪を罪と認むる時に許される、神が罪に
対して加えたもう刑罰を正当と認むる時にゆる
される。罪は、神を恨んで、ゆるされない。彼

目次(頁)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 1月の異称、1月の花、1月の言葉、 |
| 2 | 1月の暦、お知らせ(マイナンバー)カード・診療案内、健康テレפון) |
| 3 | 大岡 信選集
けんこう(百九十二) |
| 4 | 院長のひとりごと(2338)
下り宮のこと |
| | 群馬県感染症発生動向調査より |

の慈愛を疑うて、ゆるされない。義の神の義を認めて、ゆるされる。神はその無限の愛をもつてするも、罪を罪と認めざる罪人をゆるすことはできない。ヨブがおのれの無辜（のみなき）を弁護しつつありし間は、謙下（なやみ）は彼より去らなかつた。彼が謙下（へりくだ）りてエホバに向かい「われはみずから悟らざる事を言い、みずから知らざる測りがたき事を述べ、・・・・・・」（）をもて、われみずから恨み、ちり灰の中に悔ゆ」（ヨブ記四二、三、六）と言ひし時に、エホバはヨブの艱難を解きて、彼を旧（もと）に復（かえ）したもつた。人はいかに義（ただ）しき人なりといえども、神に逆らうこととはできない。おのが罪を認めて神の許しを求むるまでである。われはわが罪のために罰せられ、またわが父母、祖先また社会の罪のために罰せられる。われは神を恨むべきでない。正当の刑罰としてこれに当たるべきである。しかしてわれにこのほんとうの悔恨の心の起こりし時に、神はそのあわれみを現わしたもうて、わが罪をゆるし、わが心に喜びの油を注ぎたもう。

（内村鑑三「一日一生」十一月六日）

「一月の暦

震（2024年16時10分）震度7
(死者489人)

初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀

小寒、官庁御用始め

七草、人日、太宰府天満宮鷺替え

一一〇番の日

成人の日

小正月

十五日
十六日
十七日
二十日
二十一日
二十四日
二十五日

大寒

敷入り、親鸞聖人忌
防災とボランティアの日
奈良若草山焼き
法然上人忌

一、マイナンバーカード、資格証明書で受付を行っています。

お知らせ

二、診療案内

木曜日は休診です。

『午後診療』では予約診療もおこなっています。予約は電話でも受付できますのでご利用ください。

『診療内容』

○一般外来診療

○往診・在宅医療（△相談ください）

○骨粗鬆症の診療 ○ピロリ菌の診断・除菌

○CT、MRI、PETの予約

○胃・大腸内視鏡

○インフルエンザ・新型コロナ・肺炎球菌・
帯状疱疹ワクチンなど

三、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

電話011-711-1111-44970

月	冬の皮膚病
火	高血圧症と歯科治療
水	心筋梗塞と危険因子
木	入れ歯とインプラント
金	腰痛への新しいアプローチ
土日	乳がんは標準治療で

○当番医 五月五日（水）

大岡 信著『折々のうた』（春のうたから）

地方歌会侮るなかれと言ひ給ひき

だけど下手だねと弦きながら

清水房雄

『散々小吟集（平五）』所収。土屋文明逝去の折、半世紀この師に信従した作者が詠んだ挽歌の一首。

文明先生がある時、地方の歌会を軽く見てはいけないよといましめたというのである。文明はそういうてから、「だけど下手だね」と呟いた。この呼吸がいかにも自然で、読む者は土屋文明その人の声を聞く気分になる。人柄の温かさが、「だけど下手だね」にこもっているところを活写したのが、この歌の見所。



（県立土屋文明記念文学館資料より）

ぱぱぱさに乾いてゆく心を／

ひとのせいにはするな／

みずから水やりを怠つて

茨木のり子

「自分の感受性くらい」（昭五二）所収。

詩集と同題の詩篇の冒頭三行。三行ずつ六連の詩で、以下『気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失つたのはどちらなのか』と続く。そして最後の二連。「ダメなことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄／自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかのよ」。自戒に始まり怒りの爆発で終わる、痛快無類の詩。



（茨木のり子の献立帳より）

けんこう（百九十二）

群馬県感染症発生動向調査より（1週）



群馬県感染症発生動向調査情報（週報）

2026年 第 1 週（12月29日～1月4日）

令和8年1月7日

★県内でインフルエンザ、感染性胃腸炎の報告が継続しています。

★冬は呼吸器感染症が増えやすい季節です。咳やくしゃみが出るときは、「マスクを着用する」「鼻や口をティッシュで覆う」「袖や上着の内側で口や鼻を覆う」などの咳エチケットを心がけましょう。

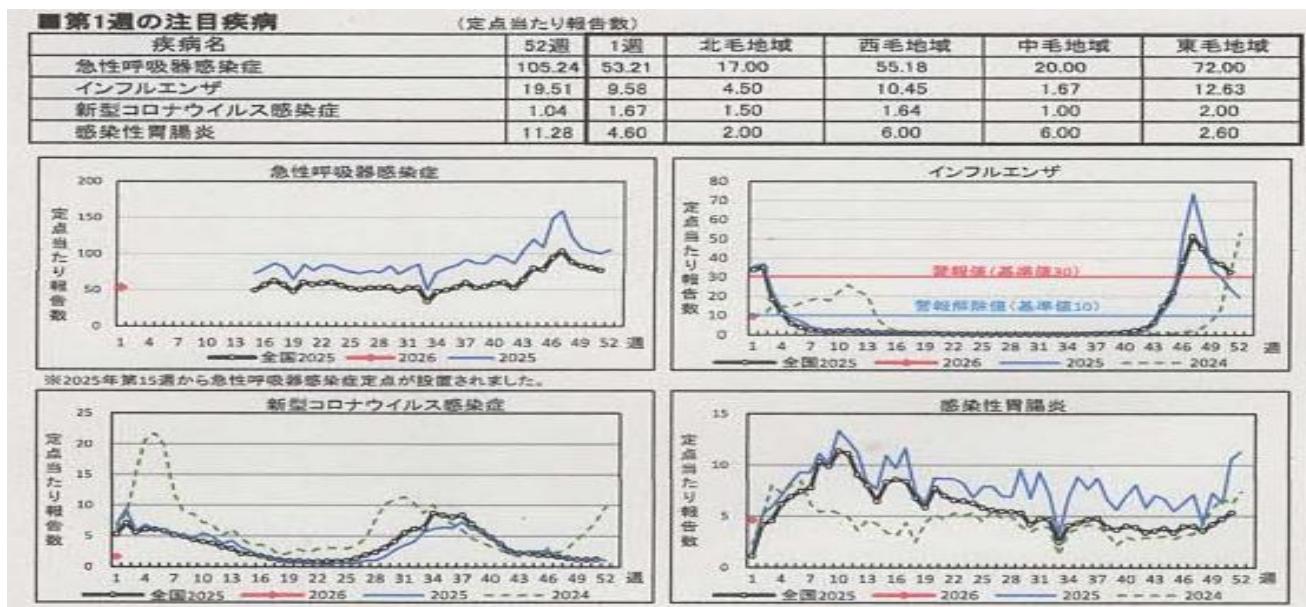
また、人ごみを避ける、こまめな手洗い、定期的な換気といった日常の対策も、感染予防に有効です。

★感染性胃腸炎は、ノロウイルスなど、アルコール消毒が効きにくい微生物が原因となることもあります。トイレの後やおむつ交換の後は石けんで丁寧に手を洗いましょう。

嘔吐物や糞便で汚染されたものの消毒には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）が有効です。

★海外渡航中、日本には無い感染症にかかることがあります。帰国後、体調が悪く医療機関を受診する場合は、渡航先や渡航期間を必ず医師に伝えてください。

※年末年始における休診の影響により、第1週の集計数は参考値となります。



熊本県草部（くさかべ）吉見神社、宮崎県鶴戸（うど）神宮を合わせて、日本三大下り宮
というとのことです。



貴前神社

◇昨年の初詣に富岡市の貴前（ぬきさき）神社に行き、社殿を見下ろす構造に、神様の頭上に脚を下ろすようで不敬な感じがしましたが、参拝者は下を向くので自然に頭を下げて宮に向かうからよいのだという説明もあり、なるほどと思いました。



木曾三社神社
たからと言われています。

院長のひとりごと (238)

◆ほかに群馬県には渋川市にも下り宮の木曾三社神社というところがあるので『木曾』の字が気になっていました。

その神社の名前は、大学の先輩のご家族が四十年前に北橘に家を建て、毎年正月にご家族全員で初詣をしていることを話してくれていたので、知つてはいましたが、下り宮であるとは昨年初めて知つたことでした。

◇『木曾三社・・・』という命名については資料をみると、1184年、木曾義仲が滋賀県栗津で、同族源氏の義経に追われ落命し、その後、家臣（今井、高梨、町田、小野沢、諸田、串渕）が、長野県筑摩郡の三座（岡田、沙田、阿礼神社の三神）を勧請して三社神社として創建しましたからと言われています。

◆鎌倉幕府には執拗・陰湿な印象を個人的には感じますが、鎌倉時代に「木曾義仲」に関係した神社がよくも鎌倉、室町、徳川時代を耐えて明治につないできてくれたものだなと思います。

◇ちなみに「義仲」の父、義賢（よしかた）は甥にあたる義平（頼朝の兄）に討たれています。二歳の義仲（駒王丸）は斎藤実盛により木曾にのがれることができました。義仲の長子義高は義仲挙兵のとき頼朝のもとに人質として差し出され、父親の死後、殺害（十二歳）されます。許嫁だった頼朝の娘大姫の苦悩、混乱は激しく、皇室への縁談も断り二十歳で亡くなっています。

◆義仲は三十一歳で近江（滋賀県）の栗津で生涯を終えています。最後まで一緒に戦い、自害（切腹）の時間をとらせようと奮戦した家来が今井兼平です。彼らの後裔は上野村にも住んでいたと言われています。有名な巴御前、兄の兼平とともに義仲の乳兄弟だったという説があります。

◇二〇年以上も前に神流川を渡り神川町を目的もなく自転車で走っていた時に、源平時代に関する石碑が何かを見つけたことがありました。

そこの町から病院に通っていた方がおられ、そのことをお話しすると、そうそう、その戦以来この村では、トウモロコシを作らなくなつたんだ、と言われた。

「はっ？・・・なぜ？」

と伺つたのですが、どうも説明を理解できなくて、ずっと疑問に思つっていました。実際にトウモロコシ畑はありましたから。

◆二年前に、悪性腫瘍の方をお家で看取る機会がありました。その方は上野村のご出身でしたので、トウモロコシのことをぜひ聞いてみようと思い、一回目か二回目の往診に伺つたところ、首を傾げられ、『モロコシといつても、日本もろこしとトウモロコシと二種類あるのだが…』といわれ、話

が進まなくなりました。そのついでに「義仲以後」のことと上野村には、言い伝えなど残つてゐるのですか？と伺つたところ、

◇「センセは何だい、義仲のことを知つてゐるのかい、それは嬉しいな…」ともう人が変わつたようにニコニコされました。

◆それは、後世生まれた俳聖・芭蕉翁も、「義仲」に「直ぐなるところ」を見たのでしょ、永遠の眠りにつくのは、琵琶湖のさざ波が聞こえる「義仲寺」のあなたの好きな義仲さんのお墓のすぐ隣で休まれているということ。

◆「ああ、もつと早くから知つていれば、いっぱい話ができたのになあ・・・」

◆「そういえば、この方も、兼平、巴と同じと。」「今井姓」などでした。

木曾義仲像



巴御前



今井兼平像



どんじ焼き（（前橋市）

